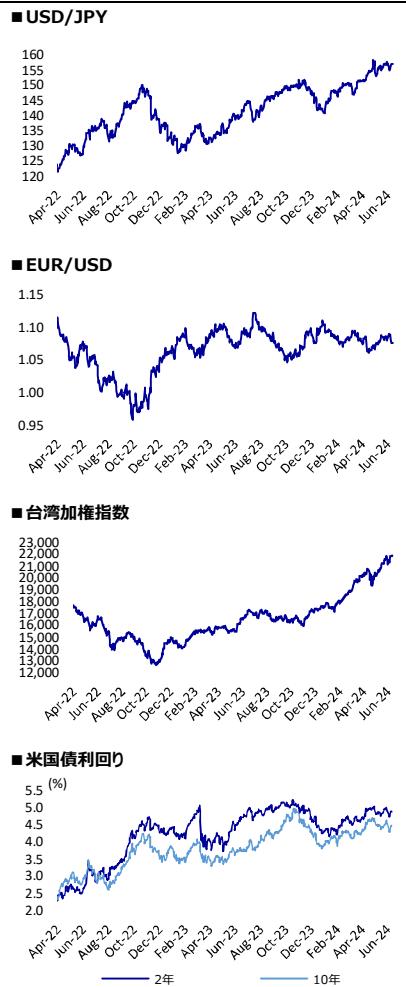
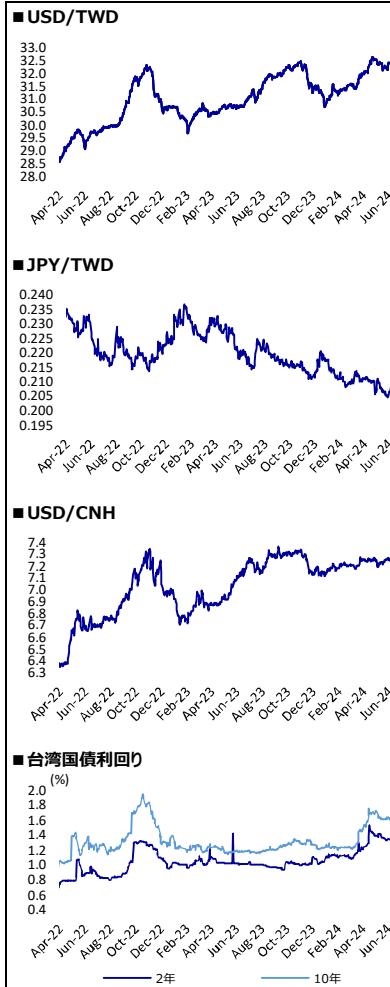


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは下落。週初6/3は32.400でオープン後、前週末海外時間に発表された米4月PCEが市場予想を下回る結果となっていたことを受けて米金利が低下する中、ドル売りが優勢な展開となり32.20台後半まで下落した。その後は海外投資資金送金が見られ、ドルが買い戻される展開となり32.40台まで上昇。6/4は、米経済指標の軟化を背景にドル売りが優勢となり32.30近辺まで下落。その後、台湾株が上値重く推移する中、外国人投資家による台湾株売りが見られ、一時32.428まで上昇した。6/5は、週末に米5月雇用統計の発表を控え、米金利が低位安定する中、リスクセンチメントの改善から台湾株が反転上昇する展開に。ドル売りが進み32.30台前半まで下落した。6/6は、前日海外時間に発表された米5月ADP雇用統計が市場予想を下回る結果となっていたことを背景に、ドル売りが優勢となり32.20台半ばまで下落した。6/7は、輸出業者による外貨売りが見られる中、ドル売りが優勢な展開となり一時32.245まで下落した。最終的には前週比0.5%ドル安台湾ドル高の32.250で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は244.7億台湾ドル。

■ USD/JPY

先週のドル/円は下落。週初6/3は157.22でオープン後、海外時間に発表された米5月ISM製造業景況感指数が市場予想を下回る結果となつたことでドル売りが優勢な展開となり、156円台前半まで下落。6/4は、鈴木財務相より為替介入について「一定の効果があった」との発言が聞かれたことや、年内米利下げが2回程織り込まれる状況になつたことを受けて、ドル売りが一段と進み一時154.55まで下落した。6/5は、米金利の低下が一服する中、ドルが買い戻され156円近辺まで上昇。6/6は、翌日海外時間に米5月雇用統計の発表を控える中、様子見姿勢が強まり156円近辺で揉み合いの推移。6/7は、海外時間に発表された米5月雇用統計において、非農業部門雇用者数並びに平均賃金が市場予想を上回る伸びとなつたことを受けて、米金利が急騰。ドル買いが優勢な展開となり、156円台後半まで上昇した。最終的には前週比0.3%ドル安円高の156.72で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.250-32.550

今週は揉み合いの推移を見込む。台米中銀会合に注目が集まるが、足許約1.3回となっている年内米利下げ織り込みが一段剥落することは想定されづらく、ドル買い余地は限定的となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：154.00-158.00

今週はボラタイルな推移を見込む。日米中銀会合の結果次第で方向感が決まるであろう。但し、日銀から円安警戒感が示される場合等においては、円買圧力が強まりやすいであろう。

今週の予定

6/10 (MON)	台湾休場
6/11 (TUE)	
6/12 (WED)	日5月企業物価指数、米5月CPI、FOMC
6/13 (THU)	台湾中銀、米5月PPI
6/14 (FRI)	日銀金融政策決定会合、米5月輸入物価、米6月ミシガン大消費者景況感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。